

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

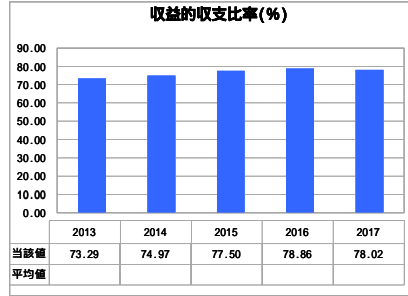
埼玉県 熊谷市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	4.85	100.00	4,100

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
198,852	159.82	1,244.22
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,599	4.71	2,038.00

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



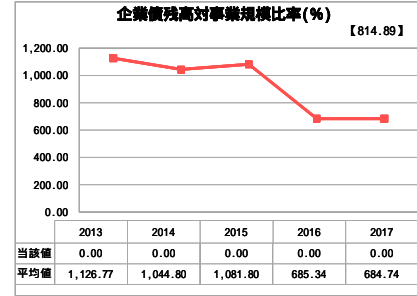
「単年度の収支」



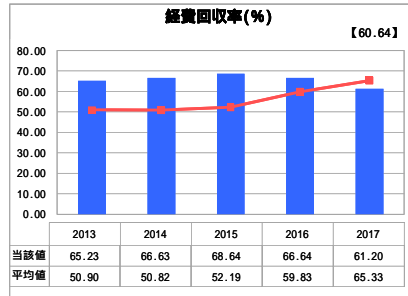
「累積欠損」



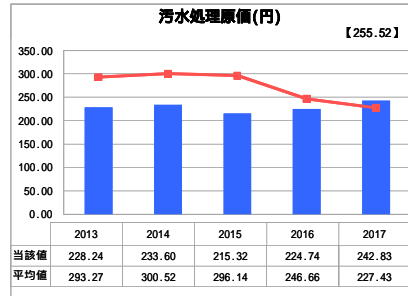
「支払能力」



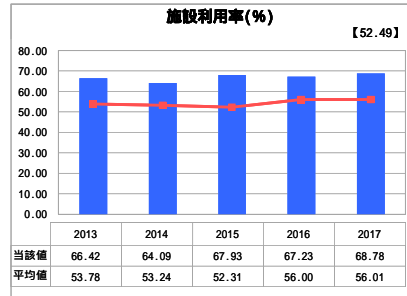
「債務残高」



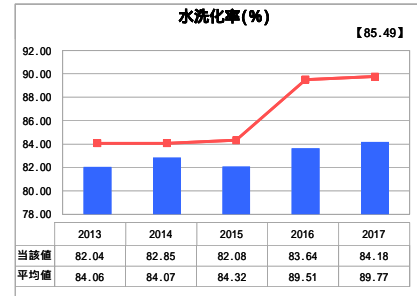
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

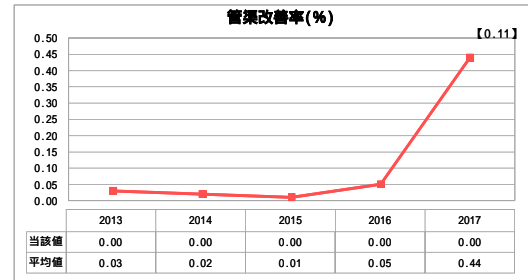
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

**収益的収支比率**  
前年度に引き続き実施した機能保全対策事業について、機能診断実施数増加に伴う農山漁村地域整備交付金の増加で総収益が増加したが、総費用も同様に増加したため前年度より0.84ポイントの低下となった。

**経費回収率**  
類似団体平均を下回り例年通り汚水処理費を使用料のみでは賄えていない状況である。  
汚水処理費の増加に対し使用料収入が伸び悩んだため、前年度より5.44ポイントの低下となった。

**汚水処理原価**  
機能保全対策事業の箇所数の増加に伴い汚水処理費も増加し類似団体平均よりも原価が高く、前年度よりも18.09円の上昇となった。

**施設利用率**  
類似団体平均よりも高い水準を維持しており、前年度より1.55ポイント上昇し類似団体に比べて効率的に稼働していると言えるが、処理能力的には余裕があるため引き続き未接続世帯の早期接続を促進していく。

**水洗化率**  
前年度より0.54ポイント上昇したものの、ここ数年は、類似団体平均よりも低い水準となっている。引き続き未接続世帯の早期接続を促進していく。

### 2. 老朽化の状況について

**管渠改善率**については、一般的な管渠の耐用年数である50年に達していないことから、更新は発生していない状況から数値化はされていないが、前年度に引き続き機能診断調査委託を実施し、今後策定予定の機能保全対策計画で計画的な処理施設と管路施設の更新検討が必要となってくる。

## 全体総括

H28年度より着手した最適整備構想の機能診断調査委託を今年度も引き続き実施し、汚水処理費が増加したのに対して、使用料収入が伸び悩んだため、全体的な指標は若干低下している。  
依然として汚水処理費を使用料では賄いきれず、基準外繰入金により補填している状況であり、効率的な事業運営が求められている。

今後策定予定の機能保全対策計画で、施設の老朽化に伴う維持管理増加や統廃合、公共下水道への接続による大規模改修時に財源不足とならないよう十分に検討する必要があるが、公営企業会計への移行も視野に入れ調整作業はきめ細やかなものが必要となる。

法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。  
平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。